

中央大学父母連絡会

草のみどり

Kusa no Midori

2021. **5**

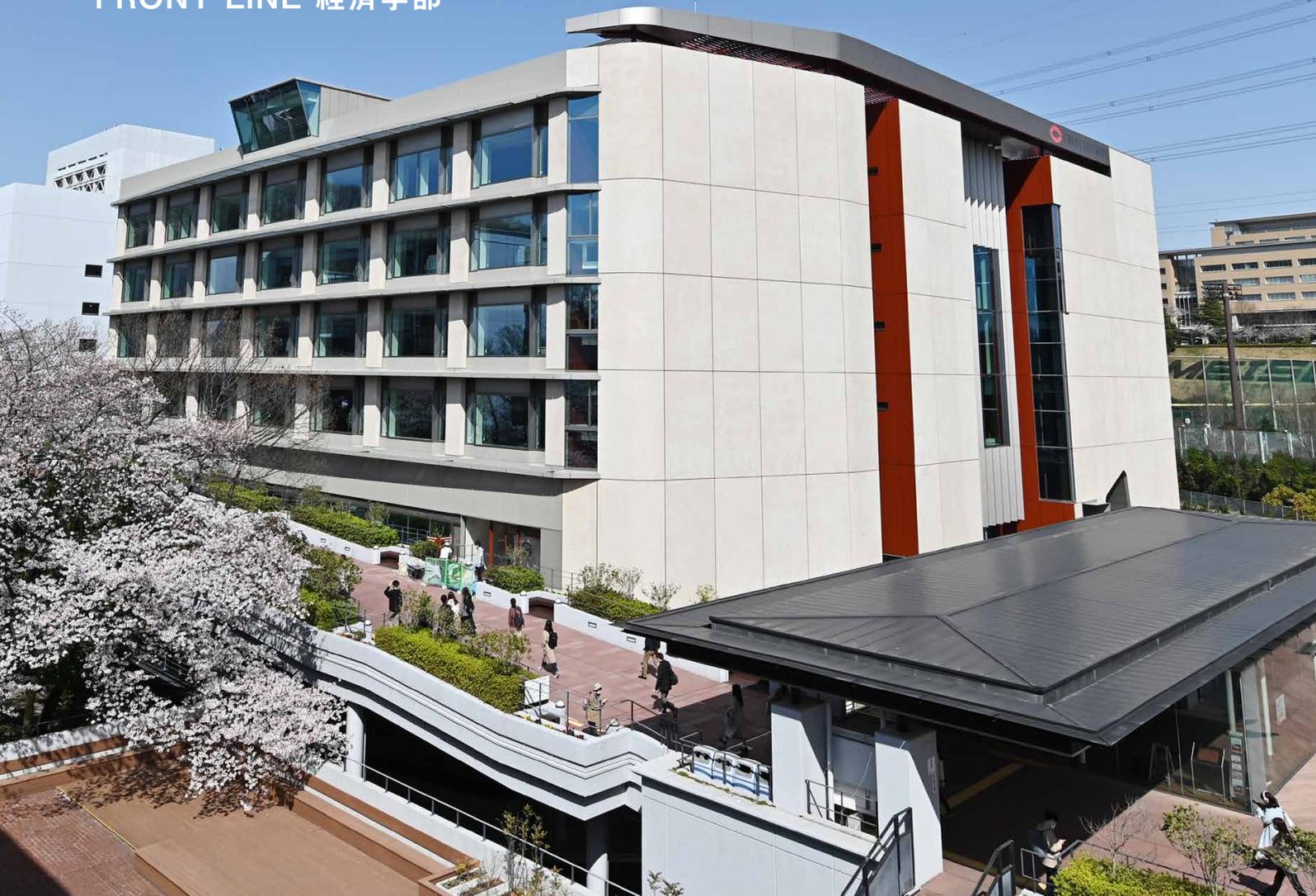
Special feature

中央大学父母連絡会へようこそ

父母懇談会開催のお知らせ

卒業式／入学式／Welcome ceremony

FRONT LINE 経済学部



国際経営学部



Vol.07

FACULTY OF GLOBAL MANAGEMENT

国際経営学部企画 「企業訪問」の運営を 通してさらなる高みへ

国際経営学部国際経営学科3年

兵庫県出身

井田 千尋
いだ ちひろ

私は昨年4月よりCompany Visit Supporter (以下、CVS)として、国際経営学部の学部企画の一つである企業訪問の運営に携わりました。2020年度は、10の一般企業、政府機関および団体の方々にご協力いただき、165名、延べ288名の1・2年生が参加いたしました。2019年度は実際にオフィスを訪問させていただきましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響でほとんどはオンラインでの実施となりました。国際経営学部

の企業訪問の特徴は、単に企業に訪問してお話を伺うだけではないということです。訪問先について学ぶ事前勉強会への参加、訪問後の事後レポートの提出を必須としています。

また、12月には合同報告会を開き、それぞれの訪問参加者の代表者が発表を行いました。訪問先の担当者さまとは先生方がアポイントメントを取ってください、我々CVSはその先生方と参加者のパイプ役となり、参加者の募集や事前勉強会の実施、参

加者との連絡などを行いました。

昨年4月、2019年度の企業訪問参加者を対象にCVSの募集がかけられました。募集メールを見てから数十分程やろうかやらないか少し迷いましたが、先着順であったためまずは悩まず挑戦してみようと決心して応募しました。バックグラウンドや得意分野の異なる学生10名が有志で集まり、キックオフミーティングを皮切りにCVSの活動がスタートしました。そのころは新型コロナウイルスの感染が日本全国で拡大し始めていて、いつ頃収まるのか、対面でのプログラムを実施できるのか不透明な状況でした。そのような状況の中、Zoomを使用したオンラインミーティングを定期的に行い、6月頃からはSlackを使用しコミュニケーションを取るなど、試行錯誤しながらさまざまなオンラインツールを利用して計画を進めました。

2019年度に引き続き2度目の実施ということもあり、ある程度流れは決まっ

ていましたが、状況が大きく異なったことで新たに対応を検討しなければならぬことも多く、困難な事態に直面することは少なかりませんでした。

CVSの活動全体を通して、タスク管理の重要性や英語のメールの書き方など、本当にさまざまなことを学び、得ることができました。それらは社会人になってから活かせることも多いのではないかと思います。臨機応変に対応する力もそのうちの一つです。たとえば、すべての訪問先の定員が決まっていない段階で、参加者確定後に行う事前勉強会のことでも考慮しながら、募集スケジュールや抽選方法を検討しなければなりません。そのときは私ともう一人が募集や抽選に関することを担当し、定員に限りがある訪問先がいくつになっても対応できるよう相談しました。その際の懸念点として、複数の訪問先に応募できるようにすることにより、どの訪問にも参加できない学生が出てくる可能性があることが挙



経済産業省事前勉強会の様子



ポリゴン・ピクチュアズ事前勉強会の様子



ポリゴン・ピクチュアズ訪問当日
対面参加者の集合写真

【「企業訪問」に関する情報】

国際経営学部では、学生が企業や公的機関を訪問する特別プログラム「企業訪問」を実施しています。2020年度秋学期には、10の企業や機関のご協力を得て、2020年10月から2021年1月までに165名(延べ288名)がオンラインを含む「訪問」に参加しました。

訪問先企業・公的機関(訪問日時順): 株式会社 AGS コンサルティング/経済産業省/株式会社フジテレビジョン/株式会社ポリゴン・ピクチュアズ/EY 新日本有限責任監査会社/三菱ふそうトラック・バス株式会社/独立行政法人国際協力機構(JICA)/一般社団法人日本経済団体連合会/認定NPO法人フローレンス/株式会社阪急阪神エクスプレス

訪問先ごとの調査テーマやレポートは、中央大学公式 Web サイト内、国際経営学部「特徴ある学び」からご覧いただけます。

<https://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/globalmanagement/point/>

げられました。どのような方法なら公平な抽選を行い、より多くの学生に参加してもらえるのが重要な論点でした。テキストメッセージで伝えにくい部分は、フローチャートで書き出し、考えられる案のその画像を共有するなどし、工夫して議論を進めました。しかしながら、ほとんどの訪問先は定員を限定しないことになったため、抽選に関しての対策で実際に活用したのはエクスセルのランダム関数を使うことだけでした。多くの時間を割いて決定したにも関わらず、ほとんどの対策が使われない結果となりましたが、振り返ってみればこの苦労は決して無駄ではなく、未確定事項がある中で最善の対応ができたと考えています。

私には当初から、参加者がプログラムを通して主体的・積極的に行動し、企業訪問をきっかけに今後の活動につなげてほしいという思いがありました。たとえば、「経済産業省を訪問して国家公務員への興味

わき、キャリアプランの一つとして考えるようになった」「合同報告会で発表し、英語のプレゼンテーションスキルを向上させることができた」など、大小関係なく何らかの成果が得られればいいのです。私の場合は、1年次に企業訪問に参加したことでCVS募集のご連絡をいただき、活動に参加することとなりました。これこそ企業訪問がきっかけとなり実現したことの一つであり、これにより非常に有意義な経験ができたと感じています。企業訪問への参加がゴールではありません。プログラム全体を通して得たことが何かの役に立ち、参加者の皆さんの今後に少しでも影響するなら幸いです。

最後に、訪問先のご担当者の皆さま、学部教職員の皆さま、参加してくださった学部生の皆さま、CVSのメンバー、この度の企業訪問にかかわってくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

国際経営学部だより

働くことの魅力に接し、学びの活力に

国際経営学部教授 **国松 麻季**



国際経営学部は、国際社会の発展に向けてチャレンジし続けることができる人間性豊かなグローバル・マネジメント・リーダーの養成をめざす、設立3年目の新しい学部です。学部において2019年度より実施している特別プログラム「企業訪問」は、2年目の2020年度にも多数の学部生の参加を得て、手応えのあるものとなりました。対面またはオンラインでの「訪問」を受け入れてくださった企業・機関の方々から、仕事の内容にとどまらず、失敗談も含めて働くことの魅力ややりがいを、それぞれの言葉で学生たちに語り掛けていただきました。学生たちが、目を輝かせてお話を聞きながら社会の入り口を肌で感じ、キャリアについて考える端緒を得て、大学における学びのエネルギーへとつなげていっていることが感じられます。新型コロナウイルス感染症の拡大により、学生生活が制約を受ける困難な中であってなお、科目外の活動に自発的に参加し、成長の糧とする学部生の

様子には教職員が励まされる思いです。

また、本プログラムは、初年度は教職員中心の運営でしたが、2020年度には学部生主導へと進化を遂げました。このページに寄稿されている井田千尋さんを含む最上学年の有志10名が企画運営を担うこととなり、担当教職員と連携しながら、告知や参加者募集、事前学習、当日の引率対応、合同報告会の運営など多岐にわたる活動を進めました。コロナ禍による不確定要素が多々ある中であって、オンラインと対面を巧みに組み合わせ、プログラムを成功に導いた有志メンバーと、そうした上級生の活動に近しく触れた学部生にとって、組織的行動力、自発的創造力、コミュニケーション力など、国際経営学部が重視する資質を伸長する好機となりました。

2021年度に向けて学生主体の準備も始められており、今後の継続的な展開が期待できます。本プログラムを含め、教職員は学部生の新たなチャレンジを応援してまいります。